公益財団法人
住友財団ニュース

第19号
2024年4月

Sumitomo Foundation News Vol.19

2024年度事業計画

3月に開催された理事会で、2024年度の事業計画が承認されました。
現在、助成プログラム内容の見直しを進めていますが、2024年度の実施予定の項目をご紹介します。
また、基礎科学研究助成については、2025年度からの内容変更を検討中です。

1. 修復文化財展示事業助成の新設（内閣府申請中）

- 修復した文化財を展示することで、文化財修復を広く知ってもらい、修復の意義を高める。
- 昨年度は、3件の助成を「その助成」の枠内で実施。2024年度以降は、公募プログラムとしての実施を計画し、内閣府に申請中。

2024年度助成予定

プログラム名	助成金額
基礎科学研究助成	150百万円
環境研究助成	100百万円
文化財維持・修復事業助成	70百万円
海外の文化財維持・修復事業助成	35百万円
アジア諸国における日本関連研究助成	50百万円
その他助成	20百万円
合計	425百万円

2. 修復文化財展示の実施

上記公募プログラムとは別に、財団主催による展示会の実施を計画。

① 年1回数点を展示（泉屋博古館東京を予定）

② 5年に1回程度数十点を展示（初回は2026年度に泉屋博古館での開催を予定）

現在、泉屋博古館東京の独自の企画として、「住友財団助成による文化財修復成果－文化財よ、永遠に」を開催中です（4ページ参照）。

3. 日本関連助成：研究会の実施

- 昨年度は、10/15にオンラインで実施「住友コンフェレンス2023」。ブックレット作成、YouTube公開。
- 2024年度は、10月に2日間での開催を計画（英語1日、日本語1日）。
- 将来は、助成対象者を日本へ招待することも検討。

4. 環境助成：研究完了者レビューの実施

- 研究完了報告の様式を変更（本文1ページ→4ページ）、充実させた上で、選考委員によるレビューを実施。
- この結果をもとに、研究会の実施や顕彰の実施を検討。

主な活動内容（2024年2月～4月）	
3月	第64回理事会
4月	2024年度 基礎科学研究助成・環境研究助成　募集開始（6月末まで）

©2024 The Sumitomo Foundation

文化財維持・修復事業助成

【2023年度助成先決定】
2023年度の「文化財維持・修復事業助成」は、111件の応募があり、45件が採択されました。昨年の応募は111件、採択は47件でしたので、応募数は同数、採択数で2件の減少となりました。ただし、昨年は継続申請を除く新規の採択が13件でしたが、今年は19件と6件増加しています。

【事例紹介1】

伝足利尊氏像　浄土寺（広島県尾道市）所蔵

浄土寺は室町幕府を開いた足利尊氏が、後醍醐天皇方との戦いに戦勝祈願を行うなど、足利尊氏と深い関係のある寺院ですが、足利尊氏の肖像画として同寺に伝来しているのが本像です。

足利尊氏の肖像画といえば、鎧をつけて刀を肩にかつぐような格好で黒毛馬にまたがる武者像を思い浮かべる方も少なくないと思いますが、これは足利尊氏ではないとの説が有力になり、近年では教科書でも足利尊氏として紹介されることはなくなっています。そうした中で、本像は、足利尊氏の肖像画と推測されるものとして、芸術的および学術的資料として評価されており、平成28年（2016）に広島県重要文化財に指定されています。

しかしながら、カビの痕跡が褐色の斑点となって広がるなど美術的な価値を大きく損なった状態にあることから、2ヵ年計画で修復を図ることとなりました。

【事例紹介2】

楯築墳丘墓（たてつきふんきゅうぼ）出土特殊器台　岡山大学（岡山県岡山市）所蔵

楯築墳丘墓は、全長83mにおよぶ弥生時代最大級の墳墓ですが、各地で大型墳墓が築造され始める契機となった墳墓と位置付けられ、前方後円墳の起源の一つともされています。

特殊器台は、吉備地方（現在の岡山県と広島県東部に当たる）で創出された墳墓祭祀用大型土器ですが、形態変化を経て古墳時代には埴輪に転ずることから、「埴輪の起源」と称され注目を集めています。中でもこの特殊器台は、楯築墳丘墓から出土した最古形式のものであり、全国の考古学研究者から注目されています。

しかしながら、昭和54年（1979）に岡山大学の調査により出土し復元作業が行われてから約50年が経過し、接着部分のひび割れが大きくなるなど修復箇所の劣化が著しい状況にあることから、当初の破片状態に一度解体したうえで、全面的な復元修復を行うことになりました。

海外の文化財維持・修復事業助成

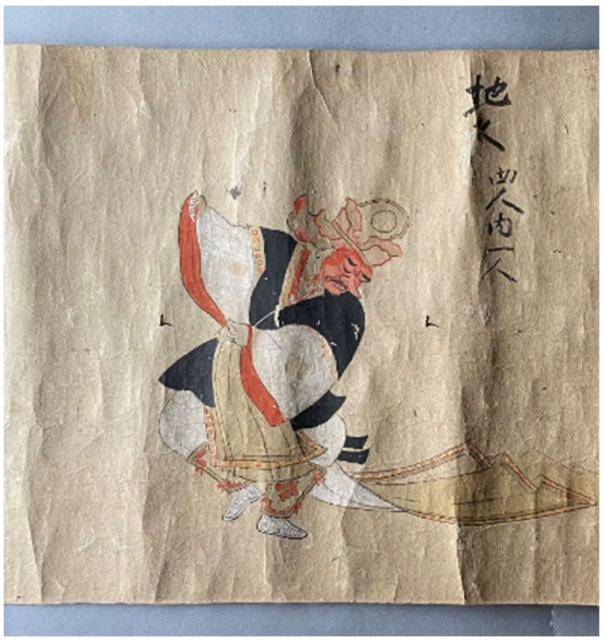
【2023年度助成先決定】
2023年度の「海外の文化財維持・修復事業助成」は、13か国（文化財の所在国では20か国）からの35件の申請に対して、14件、35百万円が採択されました。絵画7件、遺跡4件、書跡1件、工芸品1件、彫刻1件の構成で、うち日本の美術品が10件、日本以外が4件となりました。

【事例紹介1】

応永舞楽図巻
米国サンフランシスコ・アジア美術館所蔵

舞楽は、中国・朝鮮を起源とする、平安時代に成立した舞を伴う雅楽の一様式です。
「応永舞楽図巻」は、舞楽を踊る11名の演舞者が描かれた巻物で、室町時代の応永15年（1408）11月8日付の奥書により山科教言（やましなのりとき 権中納言 1328-1411）が命じて模写させたものであることが知られ、舞楽図巻として現存する最古の模本となります。

右の写真の「地久（ちきゅう）」は、朝鮮を起源とする高麗楽（こまがく）の一つで、鳳凰形の甲をかぶり、鼻高の朱面をつけて舞っている姿が描かれております。



地久　　©サンフランシスコ・アジア美術館

【事例紹介2】

浮世絵
オランダ・ゴッホ美術館所蔵

ゴッホ美術館は、ゴッホの弟テオの子息が継承したコレクションを基に1973年に設立された国営美術館です。ゴッホの油絵を中心にゴッホ書簡など多くの関連資料を所蔵していることでも世界的に有名です。

助成対象は、ゴッホ兄弟が収集した日本の浮世絵約600点です。浮世絵は、19世紀後半の印象派の画家達に大きな影響を与えましたが、特にゴッホに対して構図や色彩において大きなインスピレーションを与えたと云われております。浮世絵を模した作品も数点現存しており、右の写真は、その一例で、歌川広重作の浮世絵を模した作品となります。

修復対象

歌川広重（1797-1858）
「亀戸梅屋舗」
（「名所江戸百景」より）
多色木版画
37cm x 25.4cm
1857年（江戸時代）
ゴッホ美術館所蔵
（ファン・ゴッホ財団寄託）

修復対象を模した
ゴッホ作品

Vincent van Gogh（1853-1890）
Flowering Plum Orchard
（after Hiroshige）
oil on canvas
55.6cm x 46.8cm
Oct.-Nov.1887 Paris
Credits（obliged to state）:
Van Gogh Museum, Amsterdam
（Vincent van Gogh Foundation）

アジア諸国における日本関連研究助成

2023年度の助成は、2023年9月～10月に公募し、19の国・地域から853件（倍率12倍強、前年度比253件増）の応募がありました。例年同様、中国・韓国からは、日本人研究者では考えつかない質の高い申請が多く寄せられたほか、東南アジアや南アジアからも採択水準を充分クリアする提案が散見されましたが、これは日本留学を経験している研究者に負うところが大きいことが伺えました。1月の選考委員会では、日本との相互理解に資するかを最重要評価項目とし、研究内容のレベルや独創性などを勘案した上で、中国からが最多で17件、インドからの3件を含む計69件（助成金総額50百万円）が選考され、3月の理事会にて採択されました。採択された研究の中から3件ご紹介します（カッコ内は助成金額）。

（1）研究テーマ：『江戸時代の漢学者の読書論と読書様相に関する研究』（70万円）
採　択　者：劉菲菲（りゅう ふぇいふぇい）　中国 揚州大学 外国語学部 准教授
内　　容：本研究は、江戸時代の漢学者の読書論を分析し、朱子学派、古学派、陽明学派の三派を対象として、古代中国の儒学者の読書思想からいかなる影響を受けたのかを明らかにしようとするものです。

（2）研究テーマ：『持続可能な沿岸島嶼観光』（100万円）
採　択　者：ケビン・ムハマド・ルクマン　インドネシア パジャジャラン大学 大学院 講師　（他3名）
内　　容：本研究は、インドネシアのジャカルタ沖合のTidung島と日本の石垣島を事例に、気候変動に対処し地域の環境を維持しながら、いかに持続可能な観光開発を進めていくかを検討するものです。

（3）研究テーマ：『アジャンタ壁画が日本の仏教美術に与えた影響: 野生司香雪と彼の壁画の研究』（60万円）
採　択　者：ランジャナ・ムコパーダヤヤ　インド デリー大学 社会科学部 教授
内　　容：本研究は、インドのアジャンタ絵画が日本の仏画に与えた影響を、野生司香雪という仏画家を通じて研究するという、インド人研究者でないと出来ない日本研究の典型的な案件です。

修復文化財の展示

泉屋博古館では、これまでに住友財団の文化財維持・修復事業助成を受けて修復を終えた同館所蔵の文化財の中から、今回2点を展示する企画が開催されています。
（・会場：泉屋博古館東京　・期間：2024年3月14日～5月12日）

「ライトアップ木島櫻谷」展との同時開催企画となり、展示会の名称は「住友財団助成による文化財修復成果―文化財よ、永遠に」です。住友財団の助成事業や文化財の修理の状況などを解説したパネルが展示されています。
展示の2作品は、江戸時代に制作された「松・牡丹孔雀衝立」（2001年度助成により修復）と平安時代に制作された「毘沙門天立像」（2016年度助成により修復）です。

〒105-0012　東京都港区芝大門1-12-16（住友芝大門ビル2号館）
TEL:　03-5473-0161　FAX:　03-5473-8471
E-mail:　sumitomo-found@msj.biglobe.ne.jp
URL: http://www.sumitomo.or.jp/